

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	わ・を。ん		
○保護者評価実施期間	令和8年1月13日		令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日		令和6年11月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門的な知識や技術を持ったスタッフが在籍している	・技術を持っているスタッフに活動計画の原案をお願いし、全体で共有。役割を分担し、スタッフ自身ができることを行ってもらっている。	・支援や活動の内容について、興味や疑問を持った際に、専門的スタッフへの確認を行うことと並行して自身で研修を受けたり書物を読んだり裏付けの確認を行うことが重要。
2	・音楽療法士がおり、能動的音楽療法を主にすることで、子どもたち自身が楽しみながら様々なスキルを獲得する事が出来る	・グランドピアノ・療育用楽器等を使用する事で、より聴覚・視覚・触覚などを刺激しています。ストレス発散・運動機能の維持・改善に働きかけ、他人とのコミュニケーションを誘発させている。	・なぜこの楽器を使い、この活動をしているのかと目的を理解し音楽療法士のアシストが出来るスタッフを配置・学んでもらいたい。 ・音楽療法を通して、自分から何かを表現する事への苦手意識を減らしていけるように小さな発表の場を設けられるように調整していく。
3	・少人数療育を行う事で、子ども達の個々の特性やニーズに合わせる事が出来る。	・少人数だからこそできる関わりをもち、一人一人の可能性を最大限に支援できるように保育士、教員、心理士の知識を持つスタッフなど様々な経験を持ったスタッフで対応するようにしている。	・放課後等デイサービスと児童発達支援の交流も、一つ、子供たちの成長発達には必要な時間となることから、計画的に交流の時間、交流する時にする自由遊びの内容の吟味などを行い、効率的に、お互いが無理なく過ごせるよう曜日・時間を調整していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・知識や技術の差が、それぞれのスタッフで大きくあることで役割分担をしているが、縦割りとなると支援としても難しい面があること	・専門的な知識の習得から定着までが時間がかかる(経験、実体験、子供の成長から支援について振り返る力) ・社会活動へ参加するための療育に関する方法や技術・知識の受け取り方が研修を得てもスタッフによって異なり、目的が変わってきてしまう ・仕事量が多いスタッフと、少ないスタッフにおのずと分かれてしまい、現場の仕事量が上手く回らない。	・出来ることを、出来る人に手分けして行っていくようにするし、それぞれのスタッフの立場に於いて環境的、身体的、もともとの仕事量的に無理なことは「無理」として全体で把握し、仕事の割り振りを行っていく。 ・個別支援や小集団の支援、グループ支援につくスタッフを名指しで対応してもらい、全体的に管理・アセスメントを取るスタッフがサブでつくようにすると、OJTが上手く行くのではないかとと思われる。
2	・小人数の為、収益が上がらない	・収益の為に人数を増やすと、小人数の良さを生かす事が出来ない。	・経費が掛からないようにする必要があるが、子ども達の支援をする上では、どうしても必要不可欠。その為、本を読む時には、近くにある市立図書館を利用するなどしている。今後も公的な機関の利用する事で、充実した支援に繋げたい。
3	・スタッフの体力勝負の活動が目白押しである	・子供たちに色々体験してもらいたいという欲求のために、スタッフは体力勝負な面も多い。子供は元気なので、もっと遊ばせたり学んだりさせてあげたいと思っているが。	・スタッフの体力向上(福利厚生)、休む時間は休むといった切り替えができるよう、使っていない部屋に室内の運動器具を設置し、体力回復、リラクゼーション、気分転換ができるように配慮する。